

著作からみる石川武美の思想
- 雑誌『主婦之友』と家庭観・主婦観 -

辻 紫乃

明治・大正時代初期の女性誌は、『婦人公論』、『婦人画報』に代表されるような女性の教養層を読者対象とした雑誌が主流であった。『主婦之友』はこのような時代に家庭婦人向けの雑誌として 1947 年に石川武美（1887 - 1960）によって創刊された。『主婦之友』はそれまでの雑誌の啓蒙的な内容とは対照的に、家事などの生活の知恵といった家庭的な内容となっており、『婦人公論』、『婦人画報』といった雑誌では読者対象とはならなかった家庭婦人を読者対象とし、家庭婦人に雑誌を普及させることに成功した。さらに、家庭婦人が読者対象となる雑誌の刊行により、それまでは発言の機会が得られなかった家庭婦人が身近な問題について発言の機会を得られるようになったとして『主婦之友』は評価されている。また石川武美は、1887 年に大分県宇佐郡安心院町に生まれ、1916 年に「主婦之友社」を設立し、1917 年から主婦向けの雑誌『主婦之友』の発行を開始、『主婦之友』は 2008 年 6 月号で休刊するまで全 1176 号発行された雑誌となった。さらに 1947 年に神田駿河台にお茶の水図書館（現一般財団法人石川武美記念図書館）を開館した。日本出版配給、東京出版販売などの役員を歴任し、戦前・戦後の日本出版界に尽力し 1960 年に病没した人物である。

先行研究として、石川武美は主婦向けの雑誌『主婦之友』の出版にあたり、主婦を肯定することにより女性の社会進出を押し止めてしまったという評価があるが、これまで雑誌『主婦之友』に関する研究が盛んに行われてきたのとは対照的に、創刊者である石川武美に関する研究はあまりなされていない。そこで本研究では、石川武美が、同時代の雑誌に対して自らが創刊編集した雑誌『主婦之友』に対してどのように考えていたか、さらにその根底にあったと考えられる「主婦」や「家庭」に対する考えを分析的に明らかにすることを目的とする。

研究方法は、石川武美の著作 12 点を用いての文献研究である。石川武美の著作を集めた全集（主婦の友社、昭和 55 年発行）と、全集に収載のなかった『貯金のできる生活法』、『出版人の遺文 主婦の友社石川武美』をもとに分析を行った。著作に出現する人物名、雑誌名をすべて抽出し、さらに「家庭」、「主婦」、「婦人」、「女」、「女性」という言葉を網羅的に抽出することにより、石川武美の意識を探ることを試みた。

本研究により、石川武美は、同時代の雑誌を「婦人雑誌」と「家庭雑誌」とに明確に区別した上で、家庭向きの雑誌である『主婦之友』を出版し続けたことが明らかになった。また、石川武美は家庭と主婦の存在の重要性を強く意識しており、主婦之友社では婦人を雇用することに対して肯定的であったこと、婦人も職業的に訓練することで社会に出て働くことが出来ると考えていたことが指摘できた。

（指導教員 原 淳之）